

Topics

鬼北町の義務教育学校の導入について…

8月30日、鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会による「義務教育学校の導入について」の答申が出されました。その内容については次のとおりです。

鬼北町教育委員会では、小規模校の利点を生かす取り組みとして、保護者や地域住民の声を生かした学校づくりを行う学校運営協議会や、地域学校協働本部を全小中学校に設置し、地域と一体となって地域とともにある学校づくりを進めています。また、ICT機器を整備し、効率的かつ効果的な授業改善に努めています。

当町では、それぞれの小学校区において、特色ある地域行事・学校行事が存在し、お互いが協力しながら良い連携を保っています。

しかし、町全体での出生者数は、平成28年度から年間50人を割り込み、特に、日吉地区においては2人以下といった状況であり、学校存続の危機となっています。

このような状況の中、児童生徒数の減少が著しい日吉地区では、有志による日吉地区学校づくり推進委員会を設置し、将来の日吉小中学校の在り方を検討し、平成25年度から実施してきた小中一貫教育を、さらに一步進めた義務教育学校への移行を町教育委員会に要望されました。

今回の検討委員会においては、将来的に統廃合は避けられないという意見や、義務教育学校への移行で統廃合が容易になるのではないかと、統廃合で地域が過疎化するという心配をする意見がありました。一方で、日吉地区の委員からは、義務教育学校に移行することは日吉地区全体の要望であり、推進してほしいとの意見でした。

日吉小中学校の義務教育学校への移行については、これまでの実践により実証された、小中一貫教育のメリットを生かした学校経営を行い、義務教育学校として魅力ある学校および教育に取り組むことは自然な流れであると考えられます。

また、日吉以外の小規模校は、今後現状維持できる規模にあり、小規模校の存在効果の低下が顕著に表れるまでの間、今しばらく見守ると同時に、教育効果の低下をできる限り防止する行政施策・教育施策の展開を希望します。

以上の結果から、日吉小中学校における「義務教育学校」への移行については、「賛成する意見が多数であり、本委員会としても義務教育学校への移行を推進する必要がある」との結論に達しました。

また、今後数年間小規模校が存するにあたり、小規模校の子どもたちの教育的配慮に特化した対策を、教育行政の最重要課題と位置付けていただくことを望みます。

「義務教育学校」とはどんな学校？

- 国は、平成27年6月に学校教育法の一部を改正し、小中一貫教育をより効果的に進める目的で、これまでの小中学校に加えて「義務教育学校」を新たな校種として位置づけた。
- 小学校と中学校の9年間の義務教育を一貫して行う学校。
- 1人の校長のもと、一つの教職員組織で構成。
- 柔軟性のあるカリキュラムの設定ができる。

Information

これまで積み重ねてきた練習の成果をいかに発揮

第13回宇和島市・北宇和郡中学校新人総合体育大会は9月26、27、28日の3日間、宇和島市・鬼北町の各会場で行われ、白熱した戦いが繰り広げられました。



主な大会結果（県大会出場者）は次のとおりです。

【団体】▶バレーボール女子①広見中▶ソフトテニス男子①日吉中▶ソフトテニス女子①広見中／②日吉中▶軟式野球①広見中▶剣道女子①広見中

【個人】▶卓球女子シングルス⑤東希笑(広見)▶卓球女子ダブルス③井伊彩佳・井關未彩季(広見)▶ソフトテニス男子①和氣道宏・中川朝陽(日吉)／②丹下聖士・古谷大空(日吉)▶ソフトテニス女子①西田なるみ・高瀬まとい(広見)／②今城佳奈・川平紗月(日吉)／⑥坂本明花・富永帆南(日吉)▶柔道男子81kg級①坂本一登(広見)▶剣道男子①高田風(広見)▶剣道女子②山下葵(日吉)／④池田彩花(広見)